



防災通信



加入世帯
回覧

2026年2月号
和合町自主防災隊

「防災訓練のアンケート結果から」

2025年11月16日に実施された防災訓練について、アンケートの回答をもとに、講評をご報告させていただきます。

1. 防災訓練への参加者 … 588名/8715人(自治会員数)
本部での訓練に参加した方(泉小学校での訓練) … 273名(自主防災隊員を含む)
1次避難所への避難訓練に参加した方 … 159名(本部訓練には参加せず)
部隊倉庫での訓練に参加した方 … 156名(本部訓練には参加せず)
安否確認の黄色いタオルが出ていたお宅 … 930/3626世帯(自治会加入世帯数)
2. アンケート結果について(全町民、自主防災隊役員を含め30名の回答)
自宅でのチェックを行った … 19/30 家族で話し合った … 23/30
備蓄を行っている … 25/30 非常持ち出し袋の準備をしている … 22/30
3. アンケートの回答から見てきた事
 - ・ 防災意識に対する町民の意識は、防災ニュースなどの回覧等により少しずつは高くなってはいるが、防災訓練への参加率、アンケートへの回答率を見ると、その意識はまだまだ低い。(意識の差が大きい)
 - ・ 訓練への参加は、義務感からの参加という方と、防災意識の高い方に限られている。今後、参加者を増やすために訓練の在り方を考える必要性がある。
 - ・ 黄色いタオルによる安否確認訓練は、2年目となった今年の掲出は約3626世帯中の930軒。安否確認の方法については、防災訓練として行っている今のやり方ではうまくいかないという回答が多く寄せられ、実際の災害時のことを見据え、今後の訓練の方法等を考えていく必要性が明らかになった。
 - ・ 今後、各部隊倉庫単位の防災活動を充実させていくという方向性を進めていく上で、町民のひとりひとりが、自分事として防災をとらえてもらえるよう、また、ご近所同士がいざという時に助け合えるようなまちづくりを考えていくことが喫緊の課題である。

避難所開設訓練を行って感じた事

避難所の開設訓練をファーストミッションボックス(FMB)の中のマニュアルを見ながら、防災訓練の参加者と共に行いました。初めての体験、どこに何があるのかわからない。マニュアルに書かれている文字を見ながらいくつかのチームに分かれ、それぞれが自主的に開設準備を進めていきました。その中で、リーダーをやってくれる人が積極的に動き始めると、周りの人も自然と協力して動き始めました。お互いに知らない人同士が協力して、訓練を行ってくれていた様子が、とてもいいなと感じました。みんなで訓練することの重要性を改めて感じました。

筆耕:防災コーディネーター 松山 美佐